

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 北山
日付	平成17年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験10年
評価調査員	在宅介護経験15年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
カクテルドレスを身に纏った5人の貴婦人たちの写真が、リビングルームに掲げられている。皆の居室にも一人ひとりの写真が貼ってある。「きれいで、素敵なドレスですね、美人揃いですね。」と5人揃った利用者に問いかけても「……。昨年のクリスマスにドレスアップしたそうだけど、残念ながら…。各居室には家族の写真や孫、子供と一緒に撮った写真も貼ってある。この写真には思い出があり、指差しながらこやかに話してくれる。
95歳を筆頭に4人の男性利用者は、「昔の一番苦労した時の話」「自分の一番輝いた仕事の話」等よく話してくれる。いつもカラオケが好きで、口ずさんでいる人もいる。昼食の準備には、「ちらし寿司や野菜の下拵」「盛り付け」「ちらし寿司に錦糸卵をのせる」「食卓の準備」「配膳」など女性も男性も参加して、皆で昼食が出来上がっていく。利用者、職員と私達も加わって「いただきまーす」。一つの長いテーブルを囲んで頂く賑やかな食事は美味しい。
皆自分の持っている能力を生かして、よく働き、よく喋り「自分が生活している」という実感と、これが認知症の姿であるという局面を見せて貰った。その中で「職員が楽しくなければ、利用者は楽しく過ごせるはずが無い」と管理者が言うとおり「笑顔があふれている」。グループホームである。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
居室にも玄関やリビングに沢山の写真が貼ってあったり、アルバムもあり、思い出は沢山ある。利用者一人ひとりに、自分の一番きれいだっ写真、自分が一番輝いていた時の写真等を持ってきて貰って、誕生日会や行事の時に、皆でその写真を見せ合っ、それぞれの自慢話や新たな出会いの話題を作ってあげては如何でしょうか。
地域や家族との関わり合いをもっと深めていく為にも、グループホームのまとまった「たより」を定期的に発行して、家族や集落の人々にグループホームからどんな情報が発信していけるよう準備をして頂きたいと思う。
もう1ユニットが近くオープンして、又賑やかなグループホームとなる。総合的に外庭の整備をして貰って、利用者が安全で快適な野外活動が出来るようになることを楽しみにしている。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「両親をやがては自分が世話をしなければならない」「それは地域のお年寄りと一緒に」と代表者が決心して設立したグループホームである。 「自分だけでなく、地域と一緒に」という思いが「地域との関わりを持った、ゆったりとした暮らし」という理念にあり、代表者に同調している介護に豊かなホーム長や男性職員をはじめ、栄養士や看護師、介護福祉士をはじめ、若い力が一緒になって、このグループホームを支えていることは本当に頼もしい。 職員は「笑顔と気持が第一」と言うホーム長以下、この職員達が利用者一人ひとりの安心して生活出来る認知症ケアのあり方を見つけていくだろう。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	リビングルームやキッチンで共同空間を居室が取り囲んでいるレイアウトになっている。利用者は各居室から出れば、そこは皆が集まっているリビングルームで、大きなテーブルに座り心地の良い回転椅子があって、歌を歌ったり、話しをしたり、食事をする。 ソファもあり、2~3人でそこで職員や仲良しと話をしている。コタツが置かれた畳の間は昼寝の場所に最適。 職員もキッチンやリビングルームで、利用者全員に目配りや見守りが出来る。屋外は広い空間で、屋外ベンチやテーブルがあり、花壇や菜園もあり、春になれば外でも楽しめそう。「そろそろじゃがいもを植えなきゃあー」と利用者の声、皆で畑をすることを楽しみにしている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	“自由と安らぎのある暮らし、安全と衛生の保たれた暮らし、持てる能力を最大限発揮出来る暮らし”をモットーとしている。 殆ど利用者は、認知症の精神的な症状は大分進行しているが、身体的な生活動作はまだ歩行したり、座位を保て、手では自分の経験した炊事や掃除をすることが出来る、歌も歌える。朝は皆で掃除をする。食事の準備や調理もする。配膳下膳、洗濯物を干したり取り込んでたたむ、また、移動バン屋さんが来て、庭に出てバンを選びに行く。 買物に職員と行く。好きな洋服を買うこともある。散歩にも良く行く。窓越しに近所の人とお話しをする。“出来ることは、何でもして貰うが、決められたスケジュールはない。利用者の思うままに一日の生活が流れている”グループホームである。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	利用者も職員もこの地域の人が多い。この北山という集落は、住民とのつながりが強く、四季折々の行事も盛んで、お祭りや色々な行事に利用者も参加している。又おみこしなど、グループホームを訪ねて祭りを盛り上げてくれる。昨年の暮れ、グループホームで餅つきをして、集落の一人暮らしの家庭にお餅を配り、お礼の言葉や深いつながりを得た。家族も積極的に来てくれる人が多い。子供やボランティアの訪問もある。 「一度かぎりの人生だ、大事にしようよこの命、みんなで幸せのワルツをうたおう、この世に生まれたしあわせを、明るく楽しく生きようよ……(星影のワルツの替え歌)」 グループホームの愛唱歌で、毎日皆で歌う。この歌詞にふさわしいグループホームの雰囲気であり、地域と共に活躍することを見守りたい。		